

第3回 飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議

日時 令和8年(2026年)4月24日(金)

8:30~10:15

場所 飯山市役所 4階 第3,4委員会室

次第

1 開会

2 委員長あいさつ

3 市民会議 議事録概要版の公表について

4 協議事項

旧4小学校利活用ビジョン策定に向けて、意見の整理、取りまとめを行います。

(1)協議事項1 旧4小学校関係 市としての現時点での利活用想定

R8.4 現在 市として具体的に想定しているのは、
太田活性化センターの移転 (旧戸狩小)
避難所、備蓄倉庫の利用 (旧戸狩小)
国民スポーツ大会事務局利用(期間限定) (旧戸狩小)

(2)協議事項2 旧4小学校利活用ビジョン提言書(案)について 協議資料①

(3)協議事項3 旧4小学校のそれぞれの利活用想定について 協議資料②

5 今後のスケジュール(案)について 協議資料③

6 その他

次回の予定について 第4回 5月21日(木)15:30~17:30

飯山市役所 4階 全員協議会室

~~第5回 6月19日(金)8:30~10:15~~

変更第5回 7月2日(木)15:30~17:30

6月19日から7月2日に変更となります。

旧4小学校利活用ビジョン提言書（案）について

構成について

市民会議の皆様には、旧4小学校利活用ビジョン提言書（案）は、次の構成の1～4までを作成、提言していただきます。

市民会議の皆様からの提言を受け、市は5. 実現に向けた取り組みと6. 推進体制について検討し、旧4小学校利活用ビジョンを策定していきます。

1. はじめに

旧4小学校利活用ビジョン策定の目的
利活用の基本方針

2. 飯山市の現状認識

飯山ならではの魅力や資源
飯山市の強み

3. 飯山市が向き合うべき課題について

飯山市の弱み
飯山市の脅威

4. 旧小学校の活用構想（ビジョン）

旧小学校ごとの活用想定

5. 実現に向けた取り組みについて

スケジュールについて

6. 推進体制について

役割分担について

1. はじめに

旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議の委員が考える基本的な方針

(1)旧4小学校は、飯山市として、なぜ「利活用」が必要なのか。

(案) 基本的な考え方

市では、少子化の進行により市内4つの小学校が閉校となり、城北小学校へ統合されました。閉校となった旧4小学校は、地域の歴史と思い出が刻まれた貴重な資産であり、今後単なる「古い建物等」として引き継ぐのではなく、飯山市の未来に向けた「地域の資産」として新たな価値を創造していく必要があります。

この新たな価値の創造のために、旧4小学校の利活用事業の方向性を打ち出すことが、旧4小学校利活用ビジョン策定の目的だと考えています。

具体的には、本利活用ビジョン策定後に実施を予定している、旧4小学校利活用事業の校舎等の利活用についての公募（利活用を希望する事業者等の募集）について、公募の方向性を示していくものであると考えます。

(2)旧4小学校利活用の基本方針（案）

5つの基本方針（仮）

方針1：民間活力の積極的活用 基本的に民間企業による利活用を想定し、事業継続性を重視した持続可能な運営体制を構築する。

方針2：多世代・多機能の複合化 子育て支援、福祉、教育、交流など多様な機能を組み合わせ、多世代が利用できる拠点として利活用する。

方針3：防災・行政機能の確保 避難所、備蓄倉庫、市の出先機能など、市民生活に不可欠な公的機能を適切に配置する。

方針4：旧4小学校の利活用は、一律ではなく、各々の立地特性を活かした利活用を行う。利活用の内容や機能を分担しながら、市の課題解決に寄与する拠点群とする。

方針5：段階的・着実な利活用 公募により、短期（1-3年）で実現可能な取り組みから着手し、中長期的な発展を目指していく。

2. 飯山市の現状認識

飯山市ならではの飯山市の強み

項目	皆様のご意見を5つ程度に集約
<p>① 飯山市、いいやま ならではの (ハード：建物、場所 等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北陸新幹線の停車駅(飯山駅)があり、首都圏と直結している 2. 30分圏内を含め周辺にスキー場が多く、アクセスが良い(戸狩・斑尾・野沢温泉など) 3. 自然が豊かでアウトドア資源が多い(四季の景観、鍋倉山/鍋倉高原、北竜湖、希望湖・湿原など) 4. 観光・文化の核となる施設や資源がある(高橋まゆみ人形館、雁木通り、飯山仏壇、寺の町 など) 5. 地域の特産品がある(坂井芋、根曲竹、雪下にんじん、常盤ごぼう、アスパラ など)
<p>① 飯山市、いいやま ならではの (ソフト：文化、風習 等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の温かさ・つながりの深い地域性 「日本のふるさと」的、最初は控えめだが打ち解けると手厚い、地域コミュニティの結束が強い 2. 雪国文化を土台にした暮らしとイベント かまくらの里、雪まつり、大型雪像、雪を資源として楽しむ発想や生活技術(雪かき等) 3. 祭り・口伝で受け継がれる伝統文化の厚み 夏秋の祭り、冬の道祖神、各集落の行事など「地域で教え継ぐ」文化が残っている 4. 食の魅力(米・野菜の質と、地域ならではの食文化) おいしい米・野菜、水の良さを背景にした味、笹寿司・やしょうま・ボクチ蕎麦、漬物文化(保存の知恵) 5. 農の暮らしが身近で、担い手・実践者が多い 畑を持つ人が多い、農業経験者や指導者がいる、無農薬・有機などで活躍する農家がいる
<p>飯山市の強みについて</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雪を中心とした豊かな自然環境と四季の魅力 (1)雪の恩恵、田園・里山・千曲川の眺望など、四季に応じた楽しみ方ができる 2. 「雪の恵み」の農業と食の品質の高さ (1)雪下野菜・良い土壌、水や空気、米・野菜・山菜の美味しさ (2)遊休農地の多さ、オーガニック(無農薬/有機)への発展可能性 3. 首都圏・北陸からのアクセスの強さ (1)新幹線駅があり東京から1本/高速道ICもあり、長野市など近隣へ出やすい 4. ウィンタースポーツ・アウトドアの適地と観光需要 (1)パウダー雪質、周辺スキー場が近い、冬季インバウンドが好調 (2)登山・トレイル・カヤック等の自然アクティビティを楽しみやすい 5. 暮らしやすさと人の温かさ(コミュニティ力) (1)不便すぎない田舎、人口密度がちょうどよい、移動ストレスが少ない(駐車場広い/信号少ない) (2)集落自治がしっかり、親切・おすそ分け精神、移住者が溶け込みやすい

3. 飯山市が向き合うべき課題について

飯山市の弱みと飯山市の脅威

項目	皆様のご意見を5つ程度に集約
③ 飯山市における機会について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新幹線停車駅・高速ICによる広域アクセスを活かした誘客/定住 (1)首都圏との近さ、将来的な北陸新幹線延伸も追い風になり得る 2. 野沢温泉人気・周辺スキーリゾートの波及(インバウンド含む) (1)野沢温泉の知名度/需要増、飽和による飯山市内への分散や投資資金流入、連携による誘客拡大 3. リモートワーク普及による移住・2拠点・ワーケーション需要の拡大 (1)飯山に住みながら働く/通う(新幹線通勤等)という選択肢を打ち出せる 4. 自然志向・アウトドア/健康志向の高まりを活かした“特色づくり” (1)自然体験型・オルタナティブ教育(フリースクール等)、子育て環境訴求、有機農業などの新しい地域ブランド化 5. 資源(遊休農地・低い地価・既存施設)を活かした新規参入・拠点づくり (1)遊休農地の活用、都市部より安い地価、旧4校の利活用、道の駅やMIZBEステーション等の整備による交流拠点強化 (2)若者の「起業したい」ニーズ、高校(下高井農林高校)との協働、関係人口づくりにもつなげられる
④ 飯山市における脅威について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口減少・高齢化による担い手喪失と地域機能の低下 (1)地域を支える70-80代の減少、事業や文化の継承難、集落存続の危機、コミュニティ弱体化 2. 若者流出と教育・雇用機会の不足による人口流出の固定化 (2)就職先が少ない/雇用が少ない、高校選択肢が少ない、進学で市外へ出ざるを得ない、元気な若者ほど市外へ 3. 気候変動・自然災害リスク(雪・暑さ・水・洪水)の増大 (1)温暖化による降雪量/降雪期間の減少、夏の高温・水不足による作物不良、積雪量の変動、洪水リスク 4. 観光・インバウンドへの依存と需要変動/競争・トラブルのリスク (1)ブーム終了の反動、他地域との競争激化、過剰インバウンドによるトラブル懸念、依存構造による不安定化 5. 内向きな市民意識・変化への抵抗による停滞と機会損失 (1)地域肯定感の不足/諦めの意識、現状変化を望まない空気、市政・議会の内向きな議論、魅力が内外で活かされないリスク

4. 課題の解決に向けた旧小学校の利活用構想（ビジョン）

(1)旧4小学校全体の構想

飯山市は子育て世代が少なく、生まれる子どもの数も100人を下回っています。地域で住み続ける負担も年々増えており、住みにくい田舎になりつつあります。このままでは少子高齢化が進み、人口減少の一途をたどることになると考えられます。

これまでの市民会議における議論から、空き校舎に市民が働ける事業者に来ていただくような「産業の拠点を目指すよりも、住みよい田舎を実現するための機能や施設」としての方向性を導きだせたと考えます。

市民の中には新幹線で通勤する方も増えています。このことは、駅に併設する市営立体駐車場の定期券が増えていることが証明しています。また、近年はオンラインによるリモートにより勤務する方も増えております。新幹線の活用や柔軟な働き方が一般的になっていくにつれ、旧4小学校を働く場としての機能付けしていくよりも、地域に子どもの声が溢れ、子育て世代に飯山市を選んでいただけるような機能や施設を整えることが有効な活用方法ではないかと方向付けられたと考えます。

また、本検討市民会議では「飯山市の強みや弱みを議論し、強みを最大限活かせる活用方策」を推し進めるために「差別化とキャッチアップ」という考え方の下検討をしております。飯山市の強みを活かし他市町村にはないサービスを行う拠点と、飯山市の弱みを補い他の市町村に追いつくためのサービスを行う拠点として具体的な利活用策を検討して次のとおりお示しすることとしました。

差別化：（独自価値の提供）、独自の付加価値を提供する。

→他の自治体との差別化を進める。（他の自治体の実施していないことを実施する。）

キャッチアップ：（後発の追い上げ）、後発の優位性を活かす。

→他の自治体との差を埋めていく。（他の自治体の実施しているが飯山市が実施していないことを実施する。）

旧4小学校全体の利活用構想

(1)飯山市の強みを活かす旧4小学校利活用方策

「豊かな自然環境」、「市民の人柄の良さ・温かさ」及び「新幹線駅がある」ことが飯山市の最大の強みです。飯山の大自然や温かな市民に見守られながら、飯山市の地域資源を満喫できる場所や、子ども達が安全に安心して過ごせる場等『子どもや子育て』がキーワードとなる機能や施設としての利活用を提案します。併せて子育てについては他の自治体と差別化を図れるような政策を同時に行うことで、飯山に住みたい子育て世帯が増えなくとも減りにくいのではないかと考えております。以上のことから、「子どもと訪れたいまち、子育てしたいまち長野県内トップクラス」に向けた中心的な機能(役割)を空き校舎に求めます。

《施策例》

①子育て世代にとって魅力的な施設(機能)

(例： 中野市の「ハブリック」、長野市の「ながのび」に匹敵する子育て施設)

②飯山市の地域資源を活用した教育・子育て施設(機能)

- ・地域独自の自然や環境を最大限活かした「木育」や「森林教育」、「雪の科学」や「農業」等、新たな教育観光の拠点。
- ・自然に生まれ、心を癒しながら通える通信制高校やフリースクールの誘致

③外国人や都会の子ども向けの特化型「自然留学」プログラム

- ・スポーツ留学、小学生向け冬/夏体験学習、山村留学

(2)「住みよい田舎」を実現するための旧4小学校利活用方策

これまで市が行ってきた「移住定住施策」や「観光施策」や「介護や健康増進」等のインフラとして利活用を進め、市民も訪れた人も国籍や年齢にとらわれず交流し、利用できる機能や施設。

《施策例》

①ホワイトシーズンは勿論のこと、グリーンシーズンにおいても星空や農業体験、サイクリング等、都会では味わえない自然との触れ合いの体験やコーディネート・相談できる機能や施設

(例：ファミリー層が宿泊できる宿泊施設、クライנגルテン)

②若者や単身者が移住のお試しや仕事等で中長期的に滞在できる機能や施設。都会のビジネスマンや芸術家等の居住と事務所(アトリエ)を兼ねるワーケーションスペースの提供。

(例：単身者向け移住お試し宿舎、農業就労者等向け中長期型滞在施設、ワーケーション施設、アーティストインレジデンス)

③高齢者福祉や健康増進等、子どもから老人まで交流し利用できる機能(施設)

(例：介護サービス事業者、サービス付き高齢者住宅、スポーツジム、若者と高齢者が交流できる場)

④独自の農産物(伝統野菜や米、キノコ等など)や伝統的な食文化を体験し楽しめる機能(施設)

(例：農家レストラン、加工所)